

汚損動物が異例なまでに着生した和歌山県白浜産のショウジンガニ (十脚目, 短尾類, イワガニ科)

久保田 信*・A. M. El-BOSSERY**

Shin KUBOTA and El-BOSSERY, A. M.: Unusual settlement of fouling animals on the grapsid crab *Plagusia dentipes* de HAAN (Decapoda, Brachyura, Grapsidae) from Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan

イワガニ科に属するショウジンガニ *Plagusia dentipes* de HAAN は, 本邦では岩礁海岸の潮間帯下部から水深20 m以浅の潮下帯に生息し, 山形県・岩手県から沖縄県八重山列島にかけて分布する(三宅, 1983; 和田, 1995; TSUCHIDA and WATANABE, 1997)。今回, 甲や歩脚をはじめ体の背腹の大半の部位が汚損動物で被覆された特異な個体を和歌山県田辺湾より採集したので報告する。

汚損動物で異例なまでに被覆されたショウジンガニ

採集個体 雄1個体

採集場所 和歌山県西牟婁郡白浜町坂田の養魚用いけすに設置された乗用車のタイヤ(水深0.5 m)

採集日 1996年10月25日

甲長・甲幅 48 mm・54 mm

汚損動物の被覆状況(図1, 2)

体全体としては7動物門14種の汚損動物が付着。甲の背面は, 額域を除くほぼ全面が被覆され, 群体性のシロウスボヤが優占し, 腹面への被覆も著しく, カサネカンザンが優占

付着動物のリスト

海綿動物門 石灰海綿綱 *Calcarea* および尋常海綿綱 *Demospongiae* それぞれ1種

刺胞動物門 エダクラゲ科 *Bougainvilliidae* の1種 [ヒドロ虫綱無鞘目], ウミサカズキガヤ科 *Campanulariidae* の1種 [ヒドロ虫綱有鞘目]; イソギンチャク目ウメボシイソギンチャク科 *Actiniidae* の1種 (2個体) [花虫綱]

環形動物門 ケヤリムシ目3種, 優占種はカサネカンザン *Protohydroides elegans* (HASWELL) [多毛綱カンザンゴカイ科]

軟体動物門 マガキ *Crassostrea gigas* (THUNBERG)

(稚貝3個体) [二枚貝綱イタボガキ科]

節足動物門 タテジマフジツボ *Balanus amphitrite* DARWIN (12個体) [蔓脚綱フジツボ科]

苔虫動物門 フサコケムシ科 *Bugulidae* の1種 [唇口目], 苔虫類 *Bryozoa* の1種

原索動物門 シロウスボヤ *Didemnum moseleyi* (HERDMAN) [ホヤ綱ウスボヤ科], ホヤ綱 *Asciacea* の1種 (単体性, 16個体)

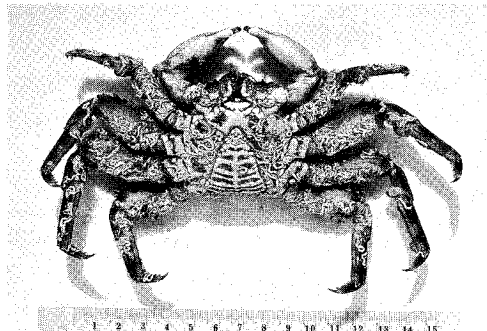


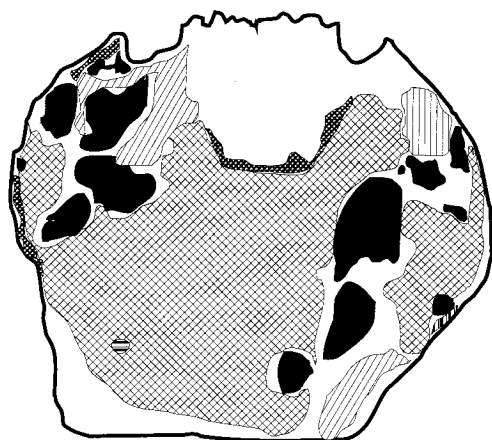
図1 汚損動物が異例なまでに着生したショウジンガニ (A: 背面; B: 腹面)。

Fig. 1. A grapsid crab *Plagusia dentipes* unusually covered by fouling animals (A: dorsal view; B: ventral view).

* 京都大学瀬戸臨海実験所 (〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町臨海)

Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University, Shirahama, Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan

** Zoology Department, Faculty of Science, Tanta University, Tanta, Egypt



- シロウスボヤ フサコケムシ科
 単体性のホヤ イソギンチャク目
 カンザシゴカイ科 エダクラゲ科
 石灰海綿

図2 図1に示したショウジンガニ個体の甲背面上での種々の汚損動物の被覆。

Fig. 2. Coverage of some taxonomic group of fouling animals on the dorsal carapace of the specimen of the grapsid crab *Plagusia dentipes* shown in Figure 1.

考 察

本州太平洋沿岸産の本種の雌は、3年以上生存する個体は少ないとの推定があり、本個体は雄ではあるが、その大きさは最大に近く老齢個体であろう（三宅，1983；和田，1995；TSUCHIDA and WATANABE，1997を参照）。従って、脱皮の頻度が落ちた後か、あるいは次回の脱皮を長期間待っている間に上記のような汚損動物が着生・成長したのであろう。今回のような老成したカニ類の甲を付着動物が例外的に被った例として、和歌山県広川ビーチ産のオウギガニ *Leptodius exaratus* (H. MILNE EDWARDS) の報告がある（山下，1996）。

ところで、本地点のいけすには多数のチレニアイガイ

Mytilus edulis galloprovincialis LAMARCK がみられる。このいけすで、本個体以外の大型のショウジンガニが、小型（前後軸長，約 20 mm 以下）のチレニアイガイの貝殻をこじあげ軟体部を摂食するのを3度観察した。このいけすでは、本種はチレニアイガイを食物の一つとし、岩場の隙間の代用にタイヤなどを利用しているのであろう。ショウジンガニの幼生は、磯や転石地帯に着底することが報告されている（WATANABE, TSUCHIDA and NAKAMURA, 1992）が、条件によってはいけすなどにも着底し、そのままそこで成長する個体もいるのかもしれない。

謝 辞

付着動物の同定をいただいた内田絃臣博士（イソギンチャク類と環形動物カンザシゴカイ科）と小川数也博士（フジツボ類）に感謝いたします。また、養魚用いけすでの観察の便宜を計って下さった近畿大学水産養殖種苗センターの宮下 盛事業場長や職員の方々に深謝します。

参 考 文 献

- 三宅貞祥. 1983：原色日本大型甲殻類図鑑(II). 277 pp. 保育社，大阪。
- TSUCHIDA, S. and WATANABE, S. 1997: Growth and reproduction of the grapsid crab *Plagusia dentipes* (Decapoda: Brachyura). J. Crustacean Biol., 17(1), 90-97.
- 和田恵次. 1995：短尾下目. in 西村三郎編著 原色検索日本海岸動物図鑑 [II], 379-418. 保育社，大阪。
- WATANABE, S., TSUCHIDA, S. and NAKAMURA, N. 1992: The daily settlement of the megalopae of the grapsid crab, *Plagusia dentipes* de HAAN (Brachyura: Grapsidae) in relation to environmental factors. Researches on Crustacea, 21, 153-158.
- 山下隆司. 1996：マガキを背負ったオウギガニ. Nature Study, 42(10), 10.